

「企業の持続的成長と ESG・SDGs 経営を考える」

企業の成長には限られた経営資源（ヒト・モノ・カネ・情報）を最適配分して最大活用することが求められます。企業の成長サイクルは、創業期、成長初期、安定・拡大期、成熟・改革期、衰退期があるといわれていますが、企業経営には衰退しないための努力、経営改革・革新が常に必要です。わが国には創業100年を超える企業が2万社以上あり、日本は世界でも類をみない老舗大国ともいわれています。多くの新規企業が誕生する一方で、清算・撤退に追い込まれるという厳しい生存競争を生き抜いて100年の歴史を積み重ねてきた企業には企業経営の共通項があります。「環境の変化に惑わされない伝統性」と「環境変化を先取りする時代性」の調和、すなわち、変えていけないものと新味を求めて変化を重ねていくものと調和が重要です。企業の歴史を振り返ると右肩上がりの順風満帆の時ばかりではなく、特に苦境時にこそ真の経営力が求められます。また、経営の姿勢というか理念として重要なことは、目先の利、自らの利だけを追わずに、社会とともに生き、生かされてきた企業が存続してきたともいえるのです。近江商人に伝わった「売り手よし、買い手よし、世間よし」のいわゆる「三方よし」の教えは、最近、特にいわれる ESG（環境・社会・ガバナンス）や SDGs（持続可能な開発目標）を踏まえた経営にも通ずるところがあります。今回の緑丘ビジネス塾は現役経営者3名と経営経験者1名により、パネルディスカッションを「企業の持続的成長と ESG・SDGs 経営を考える」と題して行います。

パネリスト；

三浦和哉氏（昭和51年卒 三菱 HC キャピタル特別顧問 前日立キャピタル会長）

合場直人氏（昭和52年卒 サンシャインシティ社長 前三菱地所専務）

石積尚幸氏（昭和57年卒 グーグルジャパン上席執行役員 前日本オラクル副社長）

橋本潤美氏（平成 8年卒 ロジネットジャパン社長）

今回の塾の進行は、まず、テーマについて各パネリストからご意見を伺い、意見交換を行っていただき、出席の皆さんとの質疑応答の時間も考えています。